

ヨハネの手紙第一4章1-6節 「神からの霊 対 反キリストの霊」

1A イエス・キリストの告白 1-3

1B 霊の吟味 1

2B 肉を持って来られた方 2

3B 今すでに来ている反キリスト 3

2A 世に打ち勝つ者たち 4-6

1B 世にいる者より偉大な方 4

2B 偽預言者たちに聞く世 5

3B 使徒たちに聞く者たち 6

本文

ヨハネの第一の手紙 4 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、前回で 3 章まで来ました。今朝は、4 章の、1 節から 6 節までを一節ずつ読んでいきたいと思います。初めに全体をお読みします。

¹ 愛する者たち、霊をすべて信じてはいけません。偽預言者がたくさん世に出て来たので、その霊が神からのものかどうか、吟味しなさい。² 神からの霊は、このようにして分かります。人となって来られたイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。³ イエスを告白しない霊はみな、神からのものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていましたが、今すでに世に来ているのです。⁴ 子どもたち。あなたがたは神から出た者であり、彼らに勝ちました。あなたがたのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大だからです。⁵ 彼らはこの世の者です。ですから、世のことを話し、世も彼らの言うことを聞きます。⁶ 私たちは神から出た者です。神を知っている者は私たちの言うことを聞き、神から出ていない者は私たちの言うことを聞きません。それによって私たちは、真理の霊と偽りの霊を見分けます。

今朝のテーマは、「霊を見分ける」ということです。神からのものだとして、語られているものすべてが、神から本当に出てくるわけではないということ。だから吟味する必要があるということです。

私は信仰をもって二年ぐらいしか経っていない時、一か月ほど、異端の教会に行ってしまったことがあります。そこにおいて、多くの霊の現象がありました。ほとんどの人が異言を話しました。預言もよくありました。それから、夢も見て、イエスの夢を見たとのことで、それを念写したものを壁に飾っているのを見ました。あたかも御霊の現れであるかのように見えたのですが、それがサタンのものでした。その時の私がものすごく高慢になっていたのを覚えています。目つきもおかしかったと、近しいクリスチャンから言われました。

数多くの聖書箇所が開かれましたが、ある時に、イエスが神であることが否定されている内容がありました。それから、ものすごい、霊的混乱と束縛の中で苦しみました。それが解かれたのは、自分の通っている教会の祈り会で、ご高齢の姉妹の献げる祈りでした。本当に素朴な祈りでしたが、私の霊に何か詰まっていたものが、取れて、泉が開かれて御霊が流れ出てくださった思いでした。涙が溢れました。霊といっても、それがすべて神からのものではないことを体験しました。

私たちは、普段、恩恵を受けているもののありがたさは、その恩恵がなくなった時に気づきます。それは、いつもと変わらない教会の姿であり、いつもと変わらない信仰告白です。イエスが御子キリストであるという告白、そしてイエスの名によって共にいのる祈りであり、そこに留まることが、いかに私たちが悪い者から守られているのか、また悪い者に勝利を与えているかしれません。

前回、使徒ヨハネは、神の命令が何かについて、3章23節でこれが神の命令であると明言していました。「私たちが御子イエス・キリストの名を信じ、キリストが命じられたとおりに互いに愛し合うこと、それが神の命令です。」信じることと、愛すること、この二つが神の命令です。4章では1節から6節までに何を信じるのかということを取り扱い、そして7節から12節において愛することについて詳しく教えてくれています。

1A イエス・キリストの告白 1-3

1B 霊の吟味 1

¹ 愛する者たち、霊をすべて信じてはいけません。偽預言者がたくさん世に出て来たので、その霊が神からのものかどうか、吟味しなさい。

このことばは、3章24節からの続きです。3章24節に、「神が私たちのうちにとどまっておられることは、神が私たちに与えてくださった御霊によって分かります。」とっています。御霊によって、初めて私たちは、神のうちにとどまっていることを知ります。御霊の働きについて、私たちは、強調しすぎることはないほど大切であることを、2章後半で、油注ぎについて学んだ時に、しっかり学びました。けれども、先ほどの私の証言のように、霊だからといって、すべてが神からのものとは限らないことを教えています。神からのものかどうか、吟味する必要があります。

「偽預言者がたくさん世に出て来た」からだと言っていますね。ヨハネがこの手紙の中で警戒している、グノーシス主義の影響を受けた者たちのことです。「2:18 幼子たち、今は終わりの時です。反キリストが来るとあなたがたが聞いていたとおりに、今は終わりの時であると分かります。」26節では、「惑わす者たち」とも呼びました。

サタンは、エバを惑わして以来、神の民とされた者たちに、神からものだとして語る偽預言者を通して、惑わすようにしています。惑わす者たちが中から現れることによって、神の民自体が自ら

を滅ぼしていくように仕向けます。

イスラエルの民の宿営の中に、ミディアン人の女たちを送るように助言したバラムが、その典型です。モアブ人の王バラクが、バラムにイスラエルを呪うように金を出したけれども、神がバラムの呪いを祝福に変えられました。そこでバラムは、イスラエルが自らを呪うようなことをすれば、神ご自身から裁かれることを考えたのです。神の民の宿営の中に淫乱と偶像礼拝が入って来て、神が処罰をせざるを得なかったのです。これが、神の教会でも起こることを、イエスは、黙示録で警告されました。ペルガモンの教会が、せつかく殉教者を出してまでサタンの座に抵抗していたのに、「2:14 バラムの教えを頑なに守る者たちがいる」として、偶像礼拝に妥協してもよいことを教える者たちがいたのです。

「偽預言者がたくさん世に出て来た」と、たくさん出て来ていることを言っています。少しではないのです。たくさん出て来ています。おそらく、偽の預言をしている人たちの方が、使徒たちの教えを守っている人たちより多かった可能性もあります。イエスが、山上の説教の終わりで偽預言者について警告された時に、門は狭いことを語られました。「マタ 7:13-14 門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入って行く者が多いのです。いのちに至る門はなんと狭く、その道もなんと細いことでしょう。そして、それを見出す者はわずかです。」多くの人が信じているからといって、それが正しいとは限らないのです。

それで、「吟味しなさい」と、ヨハネは勧めています。パウロも、預言について、吟味しなさいと教えています。「I テサ 5:20-21 預言を軽んじてはいけません。ただし、すべてを吟味し、良いものはしっかり保ちなさい。」吟味するという言葉、これは試すとも訳されるものであり、それが本物であるかどうか、その真価を試すということです。工場で何かの製品が出来たら、いろいろな耐久テストをしますね。火の中を通したり、高い所から落下させたり。そうやって検査して、それで合格になります。見た目は大丈夫なように見えても、その真価をしっかりと見ていかないといけません。

2B 肉を持って来られた方 2

² 神からの霊は、このようにして分かります。人となって来られたイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。

吟味の基準は、「イエス・キリストを告白する」ということであります。ヨハネは、既に 2 章で、先に引用した反キリストが多く現れていると言った後で、「2:23 だれでも御子を否定する者は御父を持たず、御子を告白する者は御父も持っているのです。」と言っていました。パウロは、コリント第一 12 章で、「聖霊によるのでなければ、だれも「イエスは主です」と言うことはできません。(3 節)」と言っています。ただ、もちろん、口で言い表しているからといって、それが告白していることを意味しません。イエスが自分の主であることを、その行いや生活、人生において見せている時、その口

で言い表したことが、その通りだと証しされます。そういった意味で、確かにイエスが主であると告白するのは、聖霊によるわざでなければ成し遂げられません。

イエスは、「ヨハ 16:14 御霊はわたしの栄光を現されます。わたしのものを受けて、あなたがたに伝えてくださるのです。」と言われました。イエス以外のものに焦点がずれて、それが教会において、物事を推し量る基準となっていたら危険です。イエスを信じているのか、それとも、イエスについてのことを信じているのかで、大きく違います。主は、私たちを愛されます。ところが、愛がすべて、愛が大事となったら間違いですね。主は平和の神です。でも、平和が大事、何事も平和なのだとなったら、危険です。その他、いろんな人間的なことが大きくなっている時は、御霊が働いておられず、肉が働いていると言ってよいです。イエスご自身の栄光を現すのが、御霊の働きです。

ヨハネは特に、「人となって来られた」と言っています。これは、直訳は、「肉をもって来られた」となっています。ヨハネは、手紙で、この方が肉体を持っておられることを紹介するところから、手紙を書き始めています。「1:1 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、自分の目で見たもの、じつと見つめ、自分の手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて」肉体であることを、じっくりと確かめることのできる方が、いのちのことばなのだと言っています。ヨハネは福音書において、これを明確にしており、「1:14 ことばは人(直訳:肉)となって、私たちの間に住まわれた。」と言っているのです。神である方が肉体を取られた、これが奥義です。

神の御霊は、肉を取られたキリストを証しされます。罪の中にいる人々の間に住まわれているのに、それでも聖なる神を証しされ、人々を裁くのではなく、罪を赦し、立ち上がらせる働きをされます。神であるのに人となられて、仕えられたところにある霊です。ご自身を低められたところに神の栄光が現れます。これが、御霊が証しされることです。

3B 今すでに来ている反キリスト 3

³ イエスを告白しない霊はみな、神からのものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていましたが、今すでに世に来ているのです。

反キリストは、終わりの日に現れる人物で、ダニエル書やマタイ 24 章では、「荒らす忌まわしい者」、テサロニケ第二 2 章では「不法の者」、黙示録では「獣」として出てきます。けれども、この手紙 2 章 18 節で、ヨハネはこう言っていました。「反キリストが来るとあなたがたが聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今が終わりの時であると分かります。」多くの反キリストと言っています。前の方の「反キリストが来る」というのは、今、話した通りの、特定の一の人物です。あとの方の、「多くの反キリスト」は多くの人物です。

これは、どういうことかという、サタンが権威と力と位を与える反キリストは終わりの日に現れ

るが、その反キリストを動かす霊は今も働いていて、それが偽預言者たちに顕著に表れていると
いうことであります。パウロは反キリストの霊を、テサロニケ第二 2 章で、「不法の秘密」と呼んで
いて、こう言っています。「2:7 不法の秘密はすでに働いています。ただし、秘密であるのは、今引
き止めている者が取り除かれる時までのことです。」

そこで、反キリストの霊というものを、もっと具体的に考えてみましょう。人として来られたイエスを
告白しない霊です。イエスが肉体を取って来られたのではないとするのが、グノーシス主義の影響
を受けた教えであります。イエスは、仮に現れた、仮現説と言いますが、肉体を宿していなかった
と主張します。その背景に、霊は神のものであるが、肉は悪であるという二元論があるのです。も
しイエスが肉体を取られたのであれば、善であるはずのイエスに悪が混じることになるので、それ
はあってはならないとするため、肉体は取らなかったと教えるのです。そして、その霊の部分のみ、
霊の知識のみで神に近づくのだからという教えです。

そこで、反キリストの霊、偽預言者が語るものは、「知識が大事。肉体における行いは無関係」と
いうことです。そこで、両極端の教えが生まれます。一つは、禁欲の教えです。「Ⅰテモ 4:1-3 しか
し、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに
心を奪われ、信仰から離れるようになります。2 それは、良心が麻痺した、偽りを語る者たちの偽
善によるものです。3 彼らは結婚することを禁じたり、食物を断つことを命じたりします。しかし食
物は、信仰があり、真理を知っている人々が感謝して受けるように、神が造られたものです。」肉
体で行うことを、何でも禁止します。もう一つは、どうせ無関係なのだから、何をしてもよいという放
縦です。「Ⅱテモ 3:5-7 見かけは敬虔であっても、敬虔の力を否定する者になります。こういう人
たちを避けなさい。6 彼らの中には、家々に入り込み、愚かな女たちをたぶらかしている者たちが
います。その女たちは様々な欲望に引き回されて罪に罪を重ね、7 いつも学んでいるのに、いつ
になっても真理を知ることができません。」

キリストの御霊は、神であるのに肉体を取られて、へりくだるのに対して、反キリストの霊は、肉
体において行いところから離れて、知識だけを大事にして、高ぶるのです。肉体において十字架
につけられ、罪を負われたキリストを真っ向から否定するのです。

冒頭で申し上げた、異端の教会ですが、そこではキリストの十字架は失敗であったと教えます。
私はなんとか、洗脳から解かれるために、ある教会の伝道者の方に相談しました。その人が他の
用事でその場を離れなければいけなかった時、「十字架のところを読んでおいて」と言われました。
それで、目に留まったのが、次の言葉でした。「マタ 27:41-42 同じように祭司長たちも、律法学者
たち、長老たちと一緒にイエスを嘲って言った。「他人は救ったが、自分は救えない。彼はイスラエ
ルの王だ。今、十字架から降りてもらおう。そうすれば信じよう。」これを読んだ時に、自分の心が
まさに、祭司長たち、律法学者たち、長老たちと同じになっていた自分に気づきました。キリストが

肉体において、こんなに弱くされていると思っていたのです。慕っているはずのキリストが、実は嘲っていることに気づきました。

そしてヨハネは、「あなたがたはそれが来ることを聞いていましたが、今すでに世に来ています。」と言っていますね。ずっと、不法の人について、荒らす忌まわしい者について聞いていたが、霊としてはすでに世に来ているのだという、現実感を伝えています。私たちも同じです。将来現れる、反キリストについては教えられているが、自分たちの周りに、空気のようにして反キリストの霊がやってきている、ということなのです。

2A 世に打ち勝つ者たち 4-6

しかし、私たちは、打ち勝っているという励ましを、ヨハネは次に与えます。

1B 世にいる者より偉大な方 4

⁴ 子どもたち。あなたがたは神から出た者であり、彼らに勝ちました。あなたがたのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大だからです。

「子どもたち」と呼びかけています。神から生まれた者たち、御霊によって生まれた者たちという意味合いで読んでいます。これは、自分たちは神から出ているということなのです。だから、いかに世にいる、悪い者、悪魔が強くとも、狡猾であっても、あなたがたは勝っていると励ましているのです。イエスも、ご自身が捕らえられて、引き渡される直前で、励まされました。「16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」

神から出た者であるので、神のものになっています。これこそが、どんなに敵が襲ってこようと全く敗けることのない理由であります。「ロマ 8:31 では、これらのことについて、どのように言えるでしょうか。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。」誰も敵対することはありません。パウロは、ここで「8:39 主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」としめくくっています。神に愛され、神のものとされているというところで、世に打ち勝っているのです。そして、肉において来られたキリストを告白するところで、勝っています。

そして、「あなたがたのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大」と言っています。この方が、悪魔よりも偉大、力があるということです。いかに、悪魔の勢力が猛威を振るっても、私たちのうちにおられる方は、なおのこと強いということです。

私たちは、悪魔が神に対抗し、反抗しているからといって、悪魔と神が拮抗していると考えてはいけません。しばしば、悪魔の力ばかりに注目して、あたかも神と悪魔とのタイトルマッチのように、

霊の戦いを見なしている人々がいますが、違います。悪魔は、あくまでも墮落した天使です。神が天使をお造りになられたのであり、被造物と創造者という圧倒的な違いがあるのです。

悪魔は、神に反抗しており、今、世を支配していますが、しかし、あくまでも神の主権の下でしか動くことができません。ここが私たちには理解するのが難しいのですが、神に対抗しながら、悪魔は、神の許しの中でしか動くことができず、究極的には神のしもべであるということです。そのことが良く分かるのが、ヨブ記 1-2 章です。神のところに、神の子たち、すなわち天使たちが集まってきましたが、その中にサタンもいました。そして、ヨブに対して、彼の財産に手を出すように願い出ます。神は許されますが、「1:12 ただし、彼自身には手を伸ばしてはならない。」と言いつけます。それでも、サタンが予測していたように、ヨブは神を呪うことはしませんでした。それで、「2:5 彼の骨と皮を打つてみてください。」と言います、けれども神は、「2:6 ただ、彼のいのちには触れるな。」と言われます。サタンは、神のヨブへの愛と憐れみに挑みかかったのです。けれども、神の許しなしに、すべてのことを行うことができませんでした。

黙示録には、神に仕える御使いの姿が数多く出てきますが、墮落した天使、すなわち悪魔や悪霊どもの活動も多く書かれています。その悪魔や悪霊どもであっても、例えば、底知れぬ所で鎖につながれている悪魔は、千年の間、鎖につながれているので何もすることができませんでした。千年が経って、鎖をようやく解かれたのです。神の力と主権の中でしか動くことができないのです。

2B 偽預言者たちに聞く世 5

⁵ 彼らはこの世の者です。ですから、世のことを話し、世も彼らの言うことを聞きます。

「彼ら」とは、偽預言者たちのことです。いくら、神のことを語っている、イエスのことを語っているとしても、結局は、世の話をしているにしか過ぎないということです。私たちは神から出ており、世から選別されたので、世が憎むという葛藤が、彼らにはありません。世にあるものを、そのまま語り、世の人たちもそのまま聞きます。だから、世においては非常に説得力がありますが、それはむしろ、彼らが世に属していることを表しているにしか過ぎません。イエスが弟子たちに言われました、「ヨハ 15:18-19 世があなたがたを憎むなら、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを知っておきなさい。もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。わたしが世からあなたがたを選び出したのです。そのため、世はあなたがたを憎むのです。」

終わりの日は、耳に心地の良い話に多くの人が聞こうとすると、パウロが預言しました。「Ⅱテモ 4:2-4 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽し、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理

から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。」

3B 使徒たちに聞く者たち 6

⁶ 私たちは神から出た者です。神を知っている者は私たちの言うことを聞き、神から出していない者は私たちの言うことを聞きません。それによって私たちは、真理の霊と偽りの霊を見分けます。

神から出た者たちは、「私たちの言うことを聞」くと言っています。この、私たちとは、手紙の始めにあった、イエスご自身に触れていた者たちです。初めの弟子たちであり、使徒たちのことです。「1:1 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、自分の目で見たもの、じっと見つめ、自分の手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて。」肉をもって現れたイエス・キリストを証言している者たちのことです。今でこそ、きちんと新約聖書という形で編纂され、これを読めば使徒たちの教えに従うことができますが、当時は、使徒たちが教え、伝えているものこそが、真理の霊と偽りの霊を見分けることができる判断材料だったのです。

ですから、今は、この聖書の言っていることを、そのまま聞いているかどうか、真理か偽りかを見分けるリトマス紙になります。どうやったら、見分けられるのか？だれのいうことを信用すればいいのか？ということに迷う時があるかもしれません。牧者チャック・スミスの言っていることが参考になります。「あなたが、私のいうことを信用してほしいとは願いません。イエスを信用してください。私の書いた本を読んで真理を見つけるのではなく、聖書を読んで真理を見つけてください。聖書だけを読んで、あなたが信じることに私は何の疑いも抱きません。御霊が、みことばを読むあなたを真理に導かれます。」¹ここです、何が真理で何が偽りかを知る時に、ただイエスに頼る、みことばに頼る、そうすれば聖霊が導いてくださるといふ信頼こそが、大事です。

私たちは、世に生きています。ですから、私たちのほうが圧倒的に少数派です。そして、その世に迎合して教えている偽物も、じわじわと徐々に、多くなっています。しかし、私たちは神から出たものです。御子イエス・キリストが肉をもって来られたことを告白しています。単なる知識ではなく、心から受け入れています。そして、聖書に聞いています。それ以外のものを混ぜません。ただ、聖書、すなわち預言者や使徒たちが教えていることに聞き、そのまま信じているのであれば、私たちは守られているのです。いや、守られているだけではありません。勝利しているのです。たとえ今、わずかな者たちで、圧倒的に相手が強いように見えても、確実に勝利しています。

¹ https://www.blueletterbible.org/Comm/smith_chuck/SermonNotes_1Jo/1Jo_41.cfm